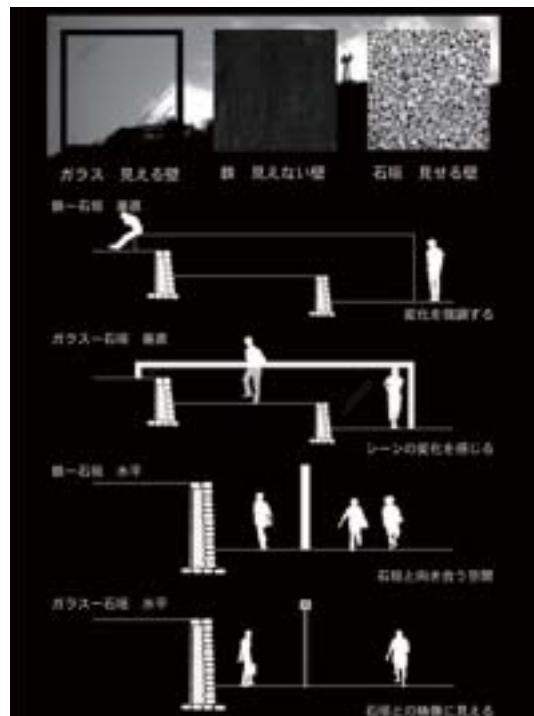
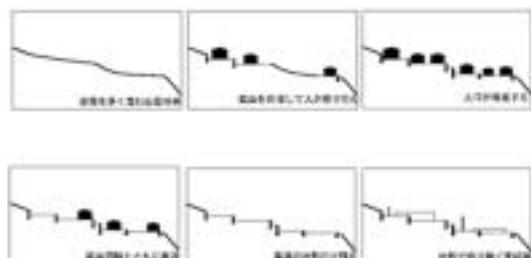
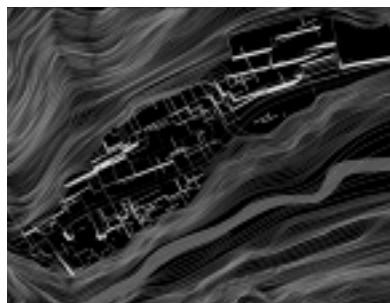




風景が美術館になる時

中村 篤史 (なかむら あつし)

千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



[講評] 我が国の多くの地域で高齢化過疎化が進み、その消滅が予想される姿を「限界集落」と呼んだ。作者の故郷に近い岐阜県東神岡町は1300年の歴史を有する鉱山として日本近代化を支えてきた。しかし、鉱山の衰退は人口流失を加速させ、ついに限界集落となった。廃屋と石垣のみが残りやがて消滅するこの集落の歴史を語り続ける方法として、作者はこの石垣の残る地形を屋外展示の美術館と見立て、保存することを考えた。ガラス・

鉄・石の壁を建築的要素として控えめにその地形に挿入して、石垣の見え方・見せ方を制御して、石垣と対峙し、その語りかけを引きだそうとする。博物館でなく美術館として……。消えゆくものの哀れさと残された石垣の永続性に大いなる美しさを覚え感動した。

(審査員：星野 治)